

3月5日 更新 JA全農ミートフーズ株式会社

項目

1.国産

○ 令和3年1月度全国の肉豚出荷頭数は1,417千頭(農林水産統計2/26公表 前年同月比98.2%、前月比93.3%)となった。
1月の全国地域別出荷頭数を前年同月比で見ると、北海道100.8%、東北98.3%、関東99.9%、北陸甲信越95.7%、東海104.2%、近畿94.4%、中四国95.9%、九州・沖縄95.9%となった。
○ 令和3年2月の全国と畜頭数は、速報値で1,269千頭(2/26まで集計)、前年同月比96.0%となっている。稼働日数では昨年同様の18日となり、1日当たりの平均と畜頭数は速報値段階で70,528頭となっている。(前年は73,485頭/日)
○ 農水省食肉鶏卵課令和3年2月24日付肉豚生産出荷予測によると、今後の出荷予測頭数は令和3年3月1,405千頭(前年同月比98%)、4月1,367千頭(同94%)、5月1,332千頭(同103%)、6月1,286千頭(同97%)となっている。

2.輸入

○ 令和3年1月の輸入通関実績は豚肉全体で66.6千ト(前年同月比92.2%、前月比93.2%)となった。
内訳はチルドが33.5千ト(前年同月比99.8%、前月比90.9%)、フローズンが33.1千ト(同85.5%、同95.6%)となった。
主な国別では、チルドがカナダ16.0千ト(前年同月比107.8%)、米国15.9千ト(同 89.2%)、メキシコ1.5千ト(同186.2%)となった。
フローズンは、スペイン7.6千ト(前年同月比78.4%)、デンマーク6.1千ト(同115.9%)、メキシコ5.9千ト(同74.1%)、米国2.8千ト(同66.7%)、カナダ1.9千ト(同85.8%)となっている。
チルドは底堅い内食需要が継続しており、北米の入船遅れを見込んで仕入れが増えたことなどから前年並みの結果となった。
フローズンは国内在庫が多いこと、外食需要の減少などにより引続き調達を抑える動きがあり、前年を下回る結果となった。

1.家計消費

2.小売動向

1月概況

○ 総務省発表の令和2年12月期家計調査報告によると、全国二人以上の1世帯当たり豚肉購入数量は2,143g(前年同月比113.7%)、支出金額が3,017円(同112.4%)となっている。
○ 日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の1月の販売統計速報によると、既存店ベースでの畜産部門の売上高は1,180億円(前年同月比109.8%)となった。緊急事態宣言発令に伴う調理需要の増加により、大型パックを中心にかなり好調に推移した。前年の暖冬からの反動により、鍋用食材の引き合いが強く、相場の上昇も追い風に豚肉や鶏肉が好調となった。牛肉にも国産、輸入問わず需要が集まっているが、和牛価格に上昇傾向がみられており、伸び悩んだ店舗もあったようだ。ハムなどの加工肉も引き続き堅調に推移したとの報告がなされた。
○ 日本チェーンストア協会が公表した1月販売概況によると、畜産品の売上は940億円(店舗調整後で前年同月比109.6%)となり、2月以降12か月連続で前年実績を上回ったが、前月比では87.8%と大幅に下回る結果となった。

2月概況

○ 2月は緊急事態宣言の発出などにより、引続き内食需要が継続するなか、全般的に量販店などの販売が底堅く推移した。輸入チルドポークは入船遅れが生じ一部アイテムで品薄感が強まるなか、量販店などの鍋物需要によりベリーなどのスライス系のアイテムの荷動きが良く、全体的に堅調な荷動きとなった。
冷蔵部位では昨年に比べ鍋物需要が好調でバラ・カタロースの引き合いが強く、ウデやモモの引き合いもあった。冷凍品の国産物はバラ・カタロースが堅調な荷動きとなり、輸入物については外食需要が激減した状況を反映し全体的に荷動きが鈍かった。

3.加工肉仕向量

○ 日本ハム・ソーセイジ工業協同組合発表 令和2年12月の豚肉加工品仕向量は33.2千ト(前年同月比102.5%、前月比99.0%)となった。
この内、国内物が6.5千ト(前年同月比111.2%)、輸入物が26.6千ト(同100.5%)となっている。
なお、上記仕向量とは別枠のシーズドポークは10.7千ト(前年同月比107.2%)となっている。

1.在庫

○ 農畜産業振興機構発表の令和2年12月末の推定期末在庫量は、188.3千ト(前年比93.1%、前月比96.6%)となった。
内訳は、輸入品の在庫が167.8千ト(前年比92.5%、前月比95.6%)、国産物が20.4千ト(同98.1%、同105.2%)となり、輸入品・国産品ともに前年を下回る結果となっている。

1.R3年2月速報値

2.予測

R3年3月

○ 令和3年2月の東京食肉市場枝肉相場は、速報値(2/26時点)で499円/kg(前年同月比114.8%)となった。
需要面では緊急事態宣言発出などに伴い内食需要が底堅く続いており、量販店などの荷動きが堅調となった。
供給面において輸入チルドポークは北米からの入船遅れが続いており、全国と畜頭数が前年同期を下回る出荷となった。相場は初旬が弱含みとなったものの、中旬以降は500円を超える展開となり、緊急事態宣言下において内食需要が継続したことなどから、全体としては前年同月を上回る結果となった。
○ 農畜産業振興機構発表の3月出荷予測頭数は1,405千頭(前年同月比97.9%)と予測している。
2月については①供給面において、輸入品の入荷が入船遅れなどにより不安定で、国内生産量が前年を下回ると見込まれ、②需要面において内食需要が継続すると見込まれることにより、相場は底堅く展開すると予測する。
ただし、出荷頭数や新型コロナウイルスの影響に伴う行政対応等による相場への影響には引続き注視が必要である。
＜相場予想： 東京市場、税込み＞
R3年1月実績 R3年2月速報値 R3年3月予測 R3年4月予測
【上物】(前年比) 497円(109.7%) 499円(114.8%) 530円(109.7%) 570円(93.3%)

備考

国内生産量の推移

農水省出荷予測 (千頭：%)

暦年	国内出荷頭数		暦年	出荷予測	
	千頭	前年比		頭数	前年比
H28年	16,379	101.7	R3年 3月	1,405	98
H29年	16,338	98.3	R3年 4月	1,367	94
H30年	16,429	100.6	R3年 5月	1,332	103
H31年	16,320	99.3	R3年 6月	1,286	97
R2年 10月	1,481	101.1	令和3年2月24日更新		
R2年 11月	1,452	102.4			
R2年 12月	1,519	102.7			
R3年 1月	1,417	98.2			

輸入量の推移

財務省 :通関実績

暦年	輸入数量		チルド数量	
	ト	前年比	ト	前年比
H28年	861,149	108.9	355,501	110.3
H29年	932,048	108.2	398,847	112.2
H30年	924,971	99.2	406,752	102.0
H31年	958,963	103.7	407,360	100.1
R2年 11月	70,550	85.2	38,552	105.8
R2年 12月	71,547	98.9	36,877	107.0
R3年 1月	66,670	92.2	33,515	99.8

家計消費量 (㍻, 円, %)

暦年	全国1世帯当り			
	数量	前年比	金額	前年比
H28年	20,431	103.0	29,484	99.3
H29年	20,785	101.7	30,025	101.8
H30年	21,514	103.5	30,591	101.9
H31年	21,178	98.4	29,637	96.9
R2年 9月	1,769	104.2	2,605	106.8
R2年 10月	1,915	105.9	2,751	107.7
R2年 11月	1,920	107.6	2,746	109.1
R2年 12月	2,143	113.7	3,017	112.4

加工品仕向量

市況の推移(東京市場)*税込み

暦年	加工品仕向量		暦年	豚枝肉「上物」	
	千ト	前年比		円/kg	前年比
H28年	370.5	98.9	H28年	524	93.7
H29年	376.6	101.6	H29年	569	108.6
H30年	376.6	100.0	H30年	518	91.0
H31年	372.1	98.8	H31年	524	101.2
R2年 9月	30.1	99.8	R2年 11月	531	116.5
R2年 10月	32.5	98.1	R2年12月	532	104.3
R2年 11月	33.5	97.5	R3年1月	497	109.7
R2年 12月	33.2	102.5	R3年2月速報	499	114.8